

芦安ファンクラブ通信



2002年
(平成14年)
冬号(第8号)
発行者:
芦安ファンクラブ
山梨県中巨摩郡
芦安村芦倉
1589-8
事務局情報係
(大滝)
055-288-2531

目指せ 東洋のツェルマットを

芦安山岳文化館(仮称)基本構想表面化

芦安村は平成一四年度に農林水産省の補助を受け「木材産業経営革新公共施設等整備事業」を導入し、南アルプス山岳文化館(仮称)床面積約一四〇〇㎡を南アルプス温泉口ツジ周辺に整備する事が明らかになった。

建設に先立ち有識者で構成された検討委員会から、二月末に芦安村長へ、以下の内容の基本構想が提出された。

「芦安村が新しい山岳都市創りを指す上で先見性をもった積極的な文化の発信地及び発信施設の確保は必要不可欠である。」

「拠点整備の為に「人と自然」「自然と文化」「環境都市創り」などの、新しい自然との関係、共生の方法を探り、確立してゆく。」

「地域住民の生甲斐を確保し、新しい観光資源の可能性を見出せる機能と内容を配備する。まず、住民が楽しめる事が重要であり、村内の年配者を中心とする語り部達がいずれもここに集い、地域を誇りに思う横顔と、多くの人々が触れ合い、伝統や文化が響き渡るような空間がなくてはならない。」

「他県に見られるような「ビクターセンター」的要素だけで終わらない新しい「山の駅」をコンセプトとして、木造建築による癒しの効果や居住性の良い環境をふんだんに取り入れた「新しい木の空間」を基本に備える。」

「音・「伝統」・「語り」など五感に響く感性を常に感じられる空間を基本にして建物を構成する必要がある。生きた空間としての施設には以下のような事業活動が必要である。」

- ① 情報発信地としての考え方
「日本高山植物保護協会」・「日本気象協会」



マッターホルンと世界的な山岳観光都市ツェルマットの全景

の協力により高山植物の開花情報・分布資料の配布及び動植物保護を目的とした啓蒙的教育の普及、山岳気象の最新情報を提供し、さらに山小屋・駐車場等各施設の情報提供を行う。現在の情報化時代に即応する為に総務省の補助を受け「地域イントラネット整備事業」により北岳及び夜叉神の定点カメラを備え付けリアルタイムの映像を一般観光客を含む来館者に大型スクリーンで提供すると共に、インターネットなどにより国内はもとより全世界に発信する。

② 展示活動の考え方(木の活用・地域文化・山岳資料他)

「木」をテーマにサンプルを展示しその活用についての紹介や普及活動を行う。村民ギャラリーに於いては地域住民の分化活動を発表する場を提供し、本村の文化史として、生活用具、民具、写真など、山の関わりとして登山史及び用具・南アルプス林道史・林業にまつわる物の展示を行う

芦安ファンクラブホームページアドレス <http://www.eps4.comlink.ne.jp/~kousetsu/>

③ 自然環境保護活動を「心とした教育普及の場」としての考え方

各種団体活動を基軸に登山教室各種自然観察会を通して自然の尊さや人と自然との関わりや歴史をあらゆる角度から学べる処にし、地元小中学生を中心とした次世代をなう子供達に教育プログラムを通して普及する。

④ 「創る・使う・楽しむ」場としての考え方

自然と人との関わりにより「木と創作」をテーマに木工・民芸品の製作体験やそば打ちなどの体験コーナーを通し伝統的な生活及び食文化を継承する。

⑤ 「見る・学ぶ・集う」場としての考え方

ハイビジョン等のAV機器 大型シオラマにより、自然の偉大さ・雄大さを表現し、各種セミナー・講演会などを通して自然との関係を学ぶ。図書コーナーに於いては世界中の山岳専門書を自由に閲覧出来る学習の機会を提供する。

又、また、「火じり」の廻りでは、語り部の活動を通して地域文化や歴史の継承を行い、昔話を掘り起して伝え次ぐ「子供探偵団」等の組織作りや支援も行う。

⑥ 「癒しと憩い」の考え方

各種演奏会やレコード鑑賞会を通して、一つの空間に人々が集まり、心を癒し自然とのハーモニーを体感する。

⑦ 関係官公庁の広報活動としての考え方

芦安村の自然や立地条件を考え官公庁の協力を得て各種コーナーをテナント方式で併設しそれぞれの機能のPR拠点とする。」

建設に向け担当する青木総務課長は「構想にあげられたような活動を通し南アルプスの登山基地として、山岳観光の在り方についても一度見直し、この施設を核にして、各種村営施設、旅館、ペンションなどを有機的に結びつけた相乗効果が期待でき、村内旧施設に息吹を与え本来の目的である活性化に向けた有効利用が可能になる。引き続き二次、三次の計画を視野に入れながら成長する施設として将来を展望したい。スイスのツェルマットやフランスのシャモニーのような長期滞在型山岳観光地を目指す必要がある」とこの施設への期待と情熱が伝わってくる。



訪れる人が楽しむ環境作りではなく芦安の人々が楽しめる美しい環境を保持していくことが大切です。グリンデルワルド・スイス



地球的な感覚で大切にしていかなければならない キタダケソウ 芦安村・北岳に生育

今現在、山岳関係者等のご厚志により山岳関係図書が約一万冊、さらにクラシックレコードが約二万枚、村に寄贈されている。その後、村のホームページで全国に向けて寄贈を依頼している。先日「キタダケソウ」の発見者である故清水基夫先生の親族(川崎市在住)の方より当時の貴重な資料を寄贈する話や他数件の申し出が有り関係者には嬉しいニュースになっている。

この施設は内部の展示物や資料が重要な部分を占めるだけに今後村内外からの多くの提供を期待している。特に村内からの生活用品や民具等の提供協力をぜひお願いしたいとの事である。

芦安ファンクラブとしてもこの施設の誕生はこれからの芦安の地域を大きく活性化させる要素があり、運営面でも全国的なニーズを求められる事を認識し、ボランティアとして出来る部分を見出しながら多方面での協力体制を整えていきたい。

「そばの会」の組織化実現 自立を目指す

食文化の伝承を村の特産に活かして

芦安ファンクラブは二月一七日(日)そば打ちの先進施設の研修や技術の習得と懇親会を兼ねた発足を実施した。

一昨年の紅葉祭に芦安の特色を生かした食産物を世に出したいと思ひ、多くの皆さんのご協力をいただきながら「そば打名人実演」の垂幕のもと、初めて商品としての挑戦を試みた。大勢のお客さんに「芦安のそば」として喜んでもらったあの感動は新鮮なものだった。その後、新緑祭、開山祭、紅葉祭と何回かの経験を重ねる度に手応えを感じ、「芦安のそば」を組織的に立ち上げたい、いや立ち上げるべきだ…の声が強まってきた。そこで行政にもお願いし、昨暮に村の広報で協賛者の呼びかけをして頂いた経緯がある。

しかし、残念ながら自主的な動きは見られず、この事も結局芦安ファンクラブへ差し戻しになった感が強く、「それならば形を変えて個々に協力をお願いをし、再度組織の結成を実現しよう」との結論が出された。



ところ変われば流儀も変わる 芦安の名人達も真剣なまなざし (明野体験工房)

少し遠回りをした感があるが、過日二月一七日(日)先進施設の研修や技術の習得と懇親会を兼ねた発足を実施した。まず体験そばで大成功をおさめた富士見町のおつこと亭に行き、設立からの経過を聴いた後、それぞれのグループに分かれて体験し、自作のそばを味わった。その後、県内の手打ちそばコンテストで優勝したという明野の体験工房で体験し、その地域のこだわりを肌で実感した。名人も初心者も入り混じって和やかなそば三昧の一日だった。今後に向けてリーダーには中村美穂子さんと千野千代美さんが推薦された。「当面週二回の修行を積み何処にも負けない芦安のそばを目指した活動を続けていきたい」と心強い。村おこしに向けたメンバーの活躍に期待しながら見守っていききたい。



「おいしいそば」に自画自賛的一幕も! (おつこと亭)

芦安ファンクラブホームページアドレス <http://www.eps4.comlink.ne.jp/~kousetsu/>



発行された追悼誌「雪稜」

「初めて合った時の装備品を見て、登山に対して慎重に計画を立てている人と感じた」「ウグイスの言葉を知っている」と、鳴きまねをして皆を笑わせる愉快な人だった」と振り返っている。

大久保泰伸さんへの追悼誌 検索の克明な記録も

「山岳遭難防止大久保基金の会」 芦安村の南アルプス・北岳遭難死した故大久保泰伸さん(神奈川県藤沢市当時(四一)才)の事故を契機に設立した「山岳遭難防止大久保基金の会」は大久保さんの山への愛着や、捜索状況などを紹介した追悼誌を発行。三百部印刷し大久保さんの山仲間や県山岳関係者、同村住民らに配布した。

北岳愛した山仲間追悼

後半では遭難後、捜索にあたった人たちがルートなどが克明に記録された資料を紹介。大久保さんの人柄から、大勢の関係者が捜索に携わったことをうかがうことができる。



小笠原警察署と連携し、年末年始の冬山情報や予想天気図などを配布して、安全登山を呼びかける「大久保基金の会」会員 (未明の夜又神峰登山口にて平成13年12月30日)

大久保さんは遭難した一九九八年五月から約二年間三ヶ月、行方を確認できなかったが、二〇〇〇年八月小太郎沢で白骨化した死体を発見。歯型などから大久保さんと確認された。基金の会関係者は「山を心から愛した大久保さんと、捜索があるたびに村に足を運び、捜索関係者全員に礼状を出し続けた両親心を打たれた。追悼誌や基金が山岳事故の防止に役立つ事を願っている」と話している。(山梨日日新聞・二月一日・掲載)

芦安村のあまなつ

チロル学園スタッフ 喜多美保子

昨年の四月に芦安に来ました。芦安村に来た当初は、都会では得たくても得られない芦安の恵みに感激の日々。嬉しくて、都会に住む家族友人と話をすると声にかけていたもので。一年が経とうとしている今、その感激はどうなつたでしょう。折に触れて感謝の気持ちには持ちますが、いつしかその恵みを当たり前に感じつつある自分にも気が付きます。逆に、都会に出ると「どうしてこうなの、芦安はちがうのに。」そんな気持ちにさえなるのです。ここに長くいればいるほど、どれほどの恵みがここにあるのか、ついつい忘れてしまうのかもありません。

そこで、わたしがこれまでどのような点に感激し、都会の人々に自慢してきたのか。芦安村のすきなところを思いつくままに記してみたいと思います。空気がきれいなこと・季節季節の花や植物が、目をとめるとそこらじゅうに見られること・木々の緑が多いこと・ネオンなど余計な光がなく、星空がきれいなこと・しんしんとした、怖くなるくらい静けさ(特に夜)・水がおいしく、安いこと・子ども達が学年に関係なく仲良しで、特に年上の子は面倒見がよいこと・すてきな学校・おばちゃんやおじちゃんの畑仕事をしている姿・醤油の実、みそなど、昔ながらの手作り食が気負わずにつくられていること・甲斐犬・御勅使川のせせらぎ、雨の後の轟音・早朝の小鳥のさえずり・焚き火のにおい。最近では、畑に積もる真っ白な雪・薪ストーブの煙突から出ている煙・冷え切った手足を温めてくれる温泉……。



芦安の味噌造り名人から教わりながら「みそづくり」を体験するチロルっ子や父母の皆さん。お土産はもちろん「てまえちみそ」



自然の中に溶け込みそうな日々 楽しまない手はナイヨ!

他にも、南アルプスの登山口であること日本第2の北岳があること・そこは、高山植物の宝庫であり、さまざまな自然の姿が見られること……。

さて、今記したような点は、外から遊びにきた人や、特に来て少ししかたつていない私のような者でも感じるすばらしさです。きっと長く住めば住むだけ、また別の、今のわたしにはわからない魅力がたくさん感じられてくるのだと思います。この村も、これから大きな変わり目を迎えることになりそうです。都会から来た人々が魅力を感じるだけでなく、村の人自身、村をもっともっと楽しみ、好きに、誇りに思えるような……芦安がそんな村になっていったら嬉しいです。そして、すべての人がそのすばらしさを日々実感できるようになら、本当に本当にすてきですね。

芦安ファンクラブホームページアドレス <http://www.eps4.comlink.ne.jp/~kousetsu/>



春を告げる花「雪割草」

芦安ファンクラブは同クラブの特
定非営利活動法人化に向けての準備
説明会を二月二十一日の定例会の中
で実施した。
会には清水哲夫村長も出席し、「合併等をふまえて、今後に向け、芦安の地域の活性化や南アルプスの自然保護等の活動にはNPO法人化は大きな推進力。全面的に協力していきたい」と、法人化に対し暖かいご理解をいただいた。
説明会では法人化に準備にご尽力をいただいている仲田氏より今後の活動をさらに動き易く、解り易くする為の法人組織化の必要性や、透明な組織の中で役割分担をはっきりさせた活動の必要性についての説明があった。
目的(南アルプスの環境保全と芦安村の活性化)を達成する為に参加者が満ち足出来る様な組織を目指す事がこれからの社会のボランティアに求められている事などが話し合われた。
会員募集、事務処理等の準備後、設立総会を三月十七日(日)午後一時から行う事が決められた。

芦安ファンクラブNPO
法人化に向けて

設立準備説明会開催

第6回南アルプス芦安登山教室開催のお知らせ!

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう

- ◇ 日 時 / 2002年 5月25日(土)午後 ~ 5月26日(日)
- ◇ 会 場 / 研修場所 芦安村交流センター「ふれあい館」TEL 055-288-2143
宿泊場所 芦安村内宿泊施設
- ◇ 研修山名 / ☆ 茅ヶ岳(1704m) ☆ 金ヶ岳(1764m) 1/25000 地形図(茅ヶ岳)
- ◇ 参加費 / ¥19,000/1人(宿泊費、食費、研修費、村内外の輸送費、保険料を含む)

予約金は不要ですが最終〆切(5月10日)以後の欠席はキャンセル料¥5000をいただきます。

／研修会のみ参加 ¥2000/1人

☆申し込み方法

電話又は官製はがきで下記の事を明示してお申し込み下さい。

- ① 住所、氏名、年齢、電話番号。
- ② 登山経験のある方は「登った山の事など」
- ③ 健康状態や気になる事

主催：芦安ファンクラブ 協賛：芦安村 後援：山梨県山岳連盟、日本高山植物保護協会(JAFPA)

☆申し込み・問い合わせ

芦安ファンクラブ「登山教室事務局」
ペンション「らんたん」^{おおたき ようぞう}大滝要造 まで
〒400-0241 山梨県中巨摩郡芦安村芦倉 1589-8
TEL 055(288)2531 FAX 共